



Private Enterprise

Venture Pulse

Q1 2022

Global analysis of venture funding
日本語抄訳版

April 20, 2022

要旨

グローバル

- ベンチャーキャピタルによる投資は、1,448億ドル（取引数：9,349件）に減速
- 全取引に占めるダウンラウンドの割合が減少
- イグジットは、過去最高を記録した前年から1,223億ドルに急落
- ファンドレイジングは堅調を維持—900億ドル以上を記録
- 世界の上位取引10件は、7カ国で実施



南北アメリカ

- ベンチャーキャピタルによる投資は952億ドル（取引数：3,946件）に到達
- バリュエーションは、過去最高に迫る状態を維持
- カナダのベンチャーキャピタルは超大型取引を含め、好況を継続
- ブロックチェーンとバイオテック関連が上位取引10件に含まれるなど注目度が高い
- ブラジルのベンチャー資金が3四半期連続で15億ドルを突破



ヨーロッパ

- ヨーロッパでは投資が堅調で、投資総額は317億ドル以上、取引総数は2,219件を記録
- シードステージ取引は投資額、取引数ともに減少
- コーポレートベンチャーキャピタルによる投資が史上2回目の140億ドルを突破
- 新規ベンチャー資金調達は15億ドルに鈍化、取引数も500件をわずかに超える件数に
- 英国とフランスで過去最高を更新
- 上位取引10件に6カ国の企業がランクイン

米国

- ベンチャーキャピタルの投資額が707億ドルに減少
- 取引数は堅調に推移し、3,723件に
- 2022年に向け、新規ベンチャーの資金調達は好調な滑り出し
- ベンチャーのファンドレイジングは順調な滑り出しを見せる
- ファンドレイジング全体に占めるフォローオン投資の割合が増加
- 米国では5億ドル以上の取引が5件を記録



アジア

- ベンチャーキャピタルによる投資が326億ドル（取引数：2,712件）に減少
- イグジットは堅調に推移し、800億ドルに迫る
- ベンチャーのファンドレイジングの滑り出しは遅い
- インドでのベンチャーキャピタルによる投資が300件を超え、79億ドルに到達
- 上位取引10件には、中国（4件）、インド（3件）、韓国（1件）、シンガポール（1件）の企業がランクイン

グローバルー2022年 第1四半期

ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻や世界的なサプライチェーンの混乱、国際金融資本市場の不安定化、インフレ率と金利の上昇、多くの地域における新型コロナウイルス感染症の拡大など、市場に大きな影響を与える数々の要因があったにもかかわらず、2022年第1四半期のベンチャーキャピタルによる投資は、世界的に比較的堅調な状態を維持しました。

5億ドル以上のラウンドを成功させた国・地域が増加傾向に

2022年第1四半期、世界的なベンチャーキャピタルによる投資においては米国が依然として最大のシェアを維持する一方で、大規模な投資ラウンドを成功させた国・地域は米国のほかにも広がりを見せています。2022年第1四半期は、米国 (Altos Labs、Flexport、Ramp、Fireblocks、Eikon Therapeutics)、フランス (Doctolib、Qonto、Back Market)、インド (Byju、Swiggy)、中国 (JD Property、Changan New Energy)、英国 (Checkout.com)、エストニア (Bolt)、トルコ (Getir)、フィンランド (Relax)、シンガポール (Princeton Digital)、カナダ (1Password) など、11カ国の企業が5億ドル以上の投資ラウンドで資金調達に成功しています。さらに、地域的な広がりに加え、2022年第1四半期の大規模投資ラウンドの投資先分野も多様化し、ヘルステックやエネルギーからフィンテック、eコマース、サイバーセキュリティなど多岐にわたります。

アジアでのベンチャーキャピタルによる投資は比較的落ち着いていたものの、南北アメリカとヨーロッパでは投資はきわめて堅調に推移し、特にヨーロッパはロシア・ウクライナ紛争が発生しているにもかかわらず、堅調さを維持しました。

IPO市場の活動は金融資本市場の不安定化により停滞

2022年第1四半期、全世界ではロシア・ウクライナ紛争の影響を受けて金融資本市場が著しく不安定になったことから、IPO活動は大幅に鈍化しました。SPAC (特別買収目的会社) を利用した上場に対する関心は2021年後半から薄れはじめ、SPACの投資家の多くがSPACによる合併について提案された条件に賛同しなかったことから、2022年第1四半期にはほぼ完全に関心が失われたと言えます。

主要な金融資本市場は株式市場の不安定さの影響を受けており、香港ハンセン株価指数は過去5年間で最低の水準に落ち込んでいます¹。特にテクノロジー企業の株式が大きな影響を受けたことで、2022年初期のIPOイグジットを検討していたテクノロジースタートアップの多くが計画を見直すきっかけになったとも考えられます。IPOの窓が閉じたことから、従来型のM&Aに関心が戻る可能性がある一方で、バリュエーションの下方圧力が持続されていることから、バリュエーションの跳ね返りを期待して様子見をしている可能性もあります。

¹ <https://tradingeconomics.com/hong-kong/stock-market>

グローバルー2022年 第1四半期

ベンチャーキャピタルによる投資ではサイバーセキュリティが好況

サイバーセキュリティ分野に対するベンチャーキャピタルによる投資は2021年に増加、その後2022年第1四半期もカナダに本拠地を置く1Passwordによる6億5,000万ドルの資金調達もあり、さらに増加しました。サイバー攻撃は世界中で著しく増加しており、国家機関や大企業に限らず中小規模の企業に対しても攻撃が増えています。脅威の種類も多様化し、より複雑な業務妨害から誤情報の拡散まで多岐にわたります。今や世界中の多くの組織がデジタルとクラウドを利用しているため、脆弱性の深刻度はさらに増していくでしょう。これらを考え合わせると、この分野へのベンチャーキャピタルによる投資は、当分の間かなり高い水準で維持されると思われます。

2022年第2四半期に注目すべきトレンド

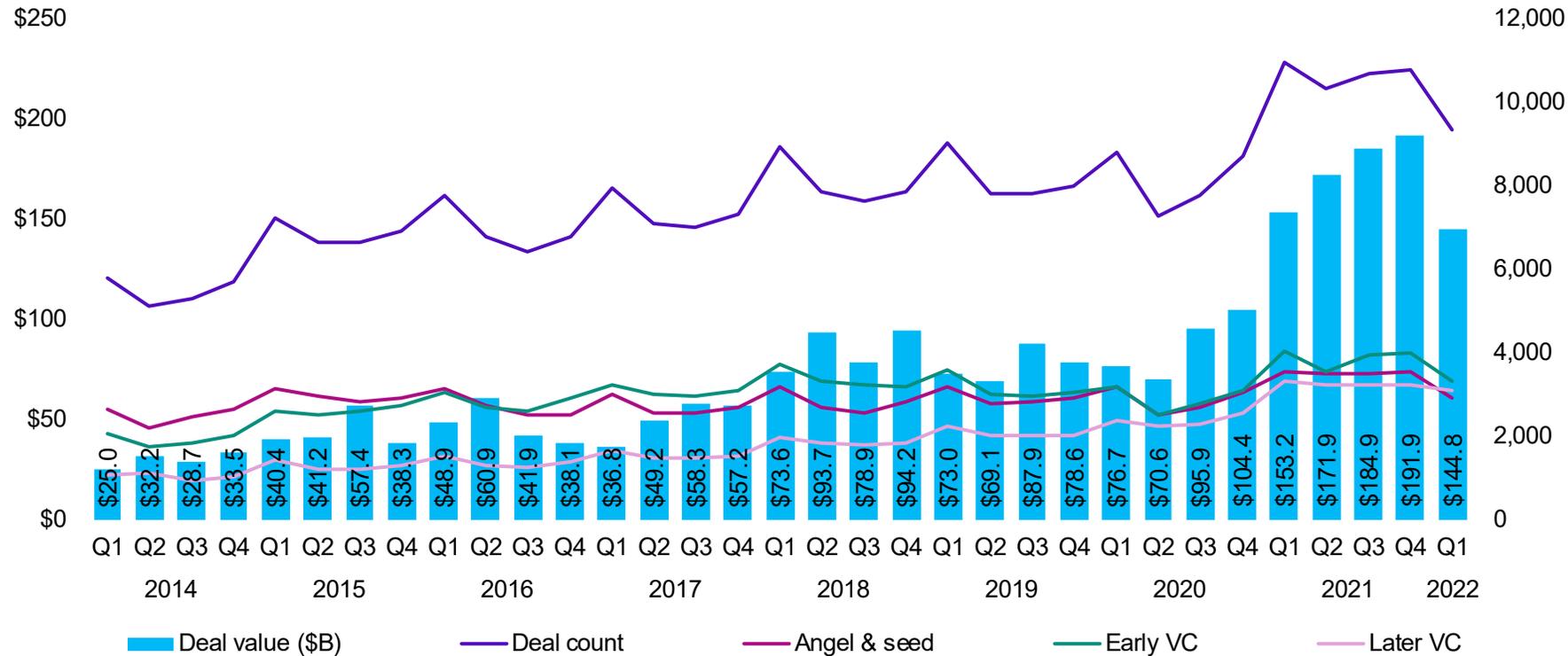
現在、異なるさまざまな要因によって引き起こされた不確実性が世界中に広がっています。その結果、ベンチャーキャピタルマーケットが長期的にどのように反応するか予測することは難しくなっています。しかし、市場には大量のドライパウダー（投資可能な手元資金）が存在することから、2022年第2四半期にはベンチャーキャピタルによる投資は比較的安定を保つのではないかと考えられます。ただし、ベンチャーキャピタルが潜在的な取引に関連するデューデリジェンスをこれまで以上に強化した場合、取引のスピードが鈍化する可能性もあります。また、ベンチャーキャピタルが投資先をミドルステージに変更する可能性もあり、そのことがベンチャーキャピタルによる投資やシードステージ投資を呼び込もうとするスタートアップにとって大きな障壁になる可能性があります。

グローバルなベンチャーキャピタルは、2022年第2四半期も金融資本市場の監視を続けていくでしょう。現在のような不安定さが続き、IPOの窓が閉じたままであれば、企業はイグジットプランおよびその戦略について検討し直す必要性に迫られる可能性があります。

グローバルー2022年 第1四半期

Global venture financing

2014-Q1'22



Source: Venture Pulse, Q1'22. Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. Data provided by PitchBook, April 20, 2022



Jonathan Lavender
Global Head,
KPMG Private Enterprise

現在、世界的なベンチャーキャピタル市場は非常にポジティブな状況にあり、オミクロン株による大きな後退はないと予想されています。この活況は、特に米国やヨーロッパにおいて2022年も続くでしょう。また来年以降には、アフリカ、中東、南アメリカなど、世界の発展途上の地域においてもベンチャーキャピタルによる投資が増えることが期待されています。

米国－2022年 第1四半期

2022年第1四半期、米国のベンチャーキャピタルによる投資は過去最高を記録した2021年第4四半期から減少に転じましたが、依然として2021年以前のどの年の四半期よりも高い水準を維持しています。この四半期の2大取引は、Altos Labsの30億ドルと、物流企業のFlexportによる9億3,500万ドルの資金調達でした。

地政学的な不確実性と世界的なサプライチェーンの問題が米国での投資を加速

グローバルサプライチェーンの混乱が続くなか、ロシア・ウクライナ紛争や米中関係に関連する地政学的な不確実性が存在しており、米国での経済成長を押し上げるうえで必要な特定商品の国内供給に注目が集まっています。特に注目を集めている分野として、半導体が挙げられます。Intelは、2022年第1四半期、米国内に半導体工場を建設すると発表しました²。同産業への注目が集まるなか、これからの数四半期にわたり、ベンチャーキャピタルによる投資が半導体分野に集まると考えられます。さらに半導体分野に関連したその他の製造装置や関連テクノロジーも、ベンチャーキャピタルからの関心と投資を呼び込む可能性があります。

² <https://www.washingtonpost.com/opinions/2022/01/21/intels-investment-us-based-semiconductor-manufacturing-is-great-news-we-need-more-that/>

ヘルステックとバイオテックがベンチャーキャピタルによる投資を引き続き誘引

米国では、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックを受けて、ヘルステック企業とバイオテック企業がベンチャーキャピタルによる巨額の投資を呼び込み続けています。2022年第1四半期、創薬企業のEikon Therapeuticsが5億1,700万ドルの資金を調達しました。この分野におけるベンチャーキャピタルによる投資は、デジタル医療サービスや医療従事者を支援するソフトウェアから創薬や医療機器に至るまで、非常に広範にわたっています。この2年間に医療従事者やデジタル医療サービスのユーザーが、バーチャル環境による医療に馴染んだこともあり、これからも医療におけるデジタル化は投資家たちの関心を引く分野になると考えられます。

バリュエーションに対する下押し圧力がユニコーンに対する懸念を刺激

金融市場では、不確実性の高まりからバリュエーションが下がり始めています。このため、一部のユニコーンが新規で資金調達ができないのではないか、あるいは以前のバリュエーションを上回ることができないのではないかという懸念が現れ始めています。これは過去2年間になかった状況で、仮にこの状況が続くようであれば、一部のユニコーンはダウンラウンドを検討しなければならなくなるでしょう。あるいは、新規に資金調達をするのではなく運転資金を維持するという決断が必要になるユニコーンも現れるかもしれません。このような状況は、バリュエーションの上昇が止まり、多数の「ゾンビ」を生み出す原因になる可能性もあります。

米国－2022年 第1四半期

アグリテックが米国の投資家の注目をますます集める

2022年第1四半期の米国では、アグリテックがベンチャーキャピタルから大きな注目を集めており、屋内垂直農業企業のPlentyが4億ドルのシリーズEの資金調達に成功したほか、細胞培養水産物企業のFinless Foodsの3,400万ドルのシリーズB資金調達など、広範にわたって投資が実施されています。米国に限らず世界的な食料安全保障と持続可能性の重要性が高まるなか、アグリテックへの投資は今後数四半期にわたって増えていくものと考えられます。

2022年第2四半期に注目すべきトレンド

金融市場には大量のドライパウダーが存在することから、2022年第2四半期には米国でのベンチャーキャピタルによる投資は比較的堅調に推移するのではないかと考えられます。しかしながら、ロシア・ウクライナ紛争、インフレ率や金利の上昇などは金融市場を揺るがしかねない懸念材料になりかねません。

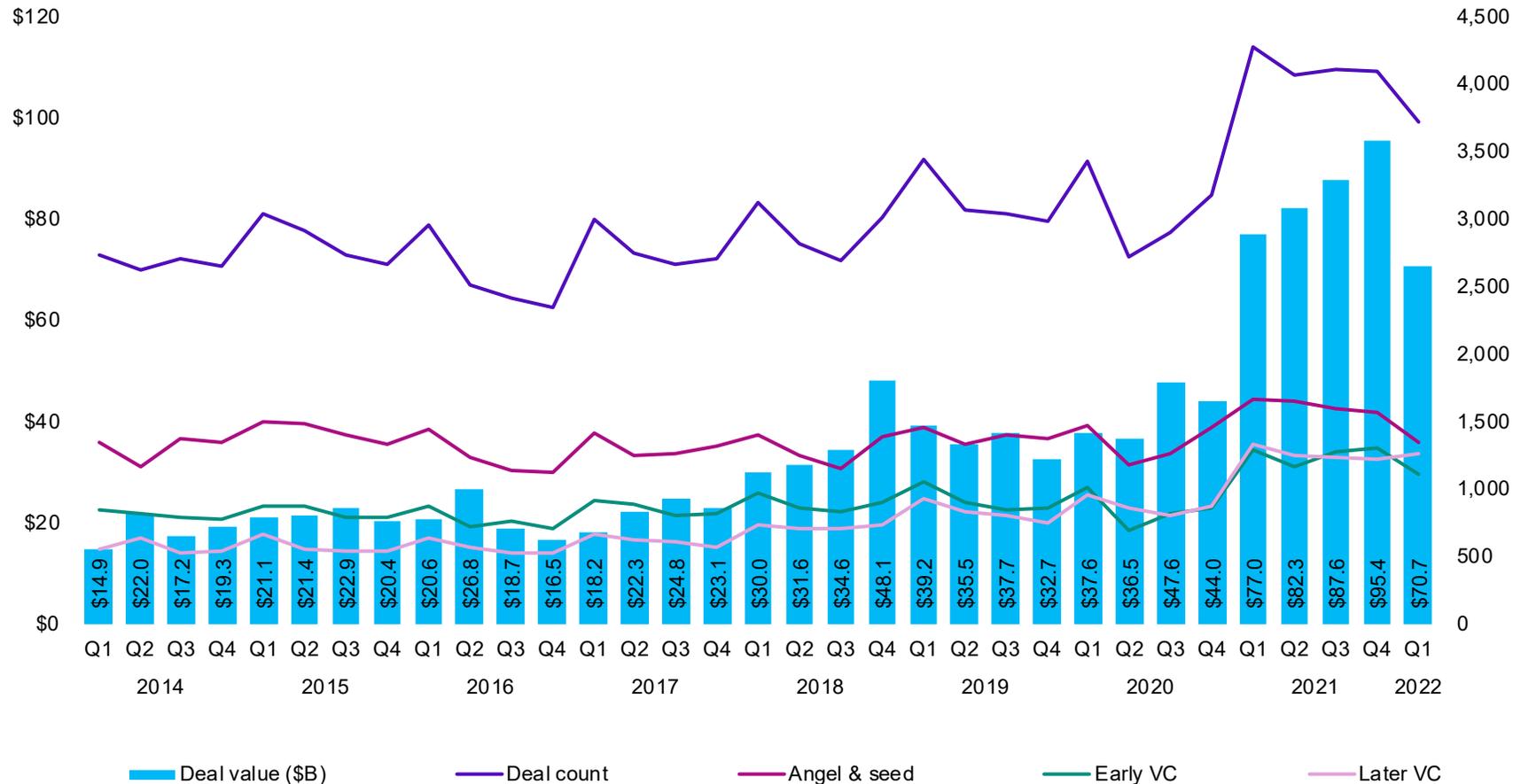
2022年第2四半期も、フィンテック、ヘルステック、EVテクノロジーがベンチャーキャピタルによる投資で引き続き注目される投資分野になっています。不動産価格の上昇に加え、シリコンバレー、ニューヨーク、ロサンゼルス以外の不動産のセカンダリーマーケットに関心を持つ投資家が急速に増加していることから、プロップテックも成長分野に位置づけられています。

最近議会を通過した米国連邦政府のインフラ投資計画法案も、従来型インフラストラクチャ、インターネット接続、電気自動車インフラストラクチャなどの多くの主要セクターに資金を注ぎ込む役割を果たすと考えられています。この計画が実行に移されれば、スタートアップにとって新しい機会が創出されることになり、ひいてはベンチャーキャピタルによる投資を新たに促す結果になる可能性があります。

米国 – 2022年 第1四半期

Venture financing in the US

2014–Q1'22



Source: Venture Pulse, Q1'22, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of March 31, 2022. Data provided by PitchBook, April 20, 2022

2021年の記録的な実績の後、IPO活動とイグジット金額は2022年第1四半期に急激に減少しました。地政学的な懸念とマクロ経済学的な懸念の両方が広がった結果、米国の金融資本市場に不確実な要因が大幅に増え、結果的にIPOイグジットを検討していた企業が小休止することになりました。IPO活動は、2022年第2四半期に向けて弱い状態で推移すると考えられます。この動向が2022年第2四半期以降も続けば、「ベンチャーキャピタルによる関心」が軟化するのを目にすることになるかもしれません。



Conor Moore

Global Leader— Emerging Giants,
KPMG Private Enterprise, and Partner
KPMG in the US

南北アメリカー2022年 第1四半期

2022年第1四半期、南北アメリカでのベンチャーキャピタルによる投資はきわめて堅調な状態を維持しているものの、2022年第2四半期からの落ち込みが予想されます。ベンチャーキャピタルによるこの地域での投資の大部分は米国ですが、カナダに本拠を置く1Passwordが6億5,000万ドル、ブラジルに本拠を置くNeonが3億ドルを調達したことから分かるように、カナダとブラジルでも好調な四半期となりました。

イグジットを検討している企業への懸念が発生

2022年第1四半期は、南北アメリカもオミクロン株に始まり、ロシア・ウクライナ紛争、インフレ率や金利の上昇など、複数の要因によって影響を受けました。地域的な懸念として、例えば3月に実施されたカナダでの新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和なども不確実性をさらに増大させる結果になっています。これらの要因の重なりは、金融資本市場への影響として現れており、結果的にこれが2022年第1四半期の株式市場に不安定化をもたらし、ひいてはIPOによるイグジットを検討していた企業がそれを見直す、という結果につながっています。このようなIPO市場への懸念にもかかわらず、2022年第1四半期、南北アメリカではベンチャーキャピタルによる投資はきわめて健全なペースで推移しており、カナダやラテンアメリカを含め、この地域において1億ドル以上の投資ラウンドが複数達成されました。

南北アメリカでは暗号資産が大きな注目を集める

南北アメリカでは、暗号資産とブロックチェーンへの関心と投資の呼び込みが続いています。2022年第1四半期、バハマのFTXが4億ドルの資金調達を行ったほか、米国のAptosも設立後わずか4ヶ月で2億ドルの資金調達に成功し、2022年第1四半期のバリュエーションは10億ドルと評価されています³。暗号資産のプラットフォームやソリューションに加え、ブロックチェーンが利用できる別の分野に対する投資家の関心も高まっています。NFT（非代替性トークン）に対する関心が大幅に低下するなか、詐欺やチケットの高額転売を減らすためのメカニズムとして、イベントチケットの利用が注目されつつあります。

カナダの2022年第1四半期は、四半期として史上2番目の投資額を記録

2022年第1四半期のカナダでのベンチャーキャピタル投資はきわめて好調でした。サイバーセキュリティ企業の1Passwordが今四半期最大の資金調達を行ったほか、エドテックのPaperが2億7,000万ドル、フィンテックのKohoが1億6,600万ドル、eコマースプラットフォームのShoplazaが1億5,000万ドル、創薬企業のVentus Therapeuticsが1億4,000万ドル、バッテリーリサイクルのLithion Recyclingが1億2,500万ドルの資金調達を行ったほかにも大きな取引がありました。2022年第1四半期には、広範囲の分野で1億ドル超の取引に成功しており、このことはカナダのスタートアップコミュニティの奥深さと、同国のベンチャーキャピタルマーケットの力強さを表しています。カナダのスタートアップは急速に成長拡大し、大型投資を引き付けるとともに世界中のベンチャーキャピタルの参入も増えています。

³ <https://www.bnnbloomberg.ca/crypto-startup-founded-by-ex-meta-employees-raises-200-million-1.1738219>

南北アメリカー2022年 第1四半期

ブラジルでの投資は、2021年後半の急上昇から急落に転じる

ブラジルのベンチャーキャピタルによる投資は、2021年第3、第4四半期に続いてすばらしい実績をあげましたが、インフレ率と金利の上昇や2022年後半に行われる連邦選挙などへの懸念により2022年第1四半期には幾分鈍化しました。2021年の第3、第4四半期からは減少しましたが、ブラジルのベンチャーキャピタルによる投資は、非常に堅調な状態を維持していると言えます。ベンチャーキャピタルファンドからの同国への関心は高い状態が続いており、2022年第1四半期に、Bamboo Capital Partnersが、テクノロジーと社会変革に関連する機会を得るためにブラジルのベンチャーキャピタルKPTLと提携関係を築きました⁴。

2022年第1四半期も、ブラジルにおけるベンチャーキャピタルによる投資の多くをフィンテックが占め、Neonは3億ドル、Creditasは2億6,000万ドル、Velvetは2億ドル、Flashは1億ドルの資金調達に成功しています。また近年行われた規制の見直しは、特にサッカー関連のスポーツベッティング分野への投資の増加につながっています。例えば、2022年第1四半期、スポーツベッティング会社のRei do Pitacoが3,100万ドルの資金調達を行っています。

2022年第2四半期に注目すべきトレンド

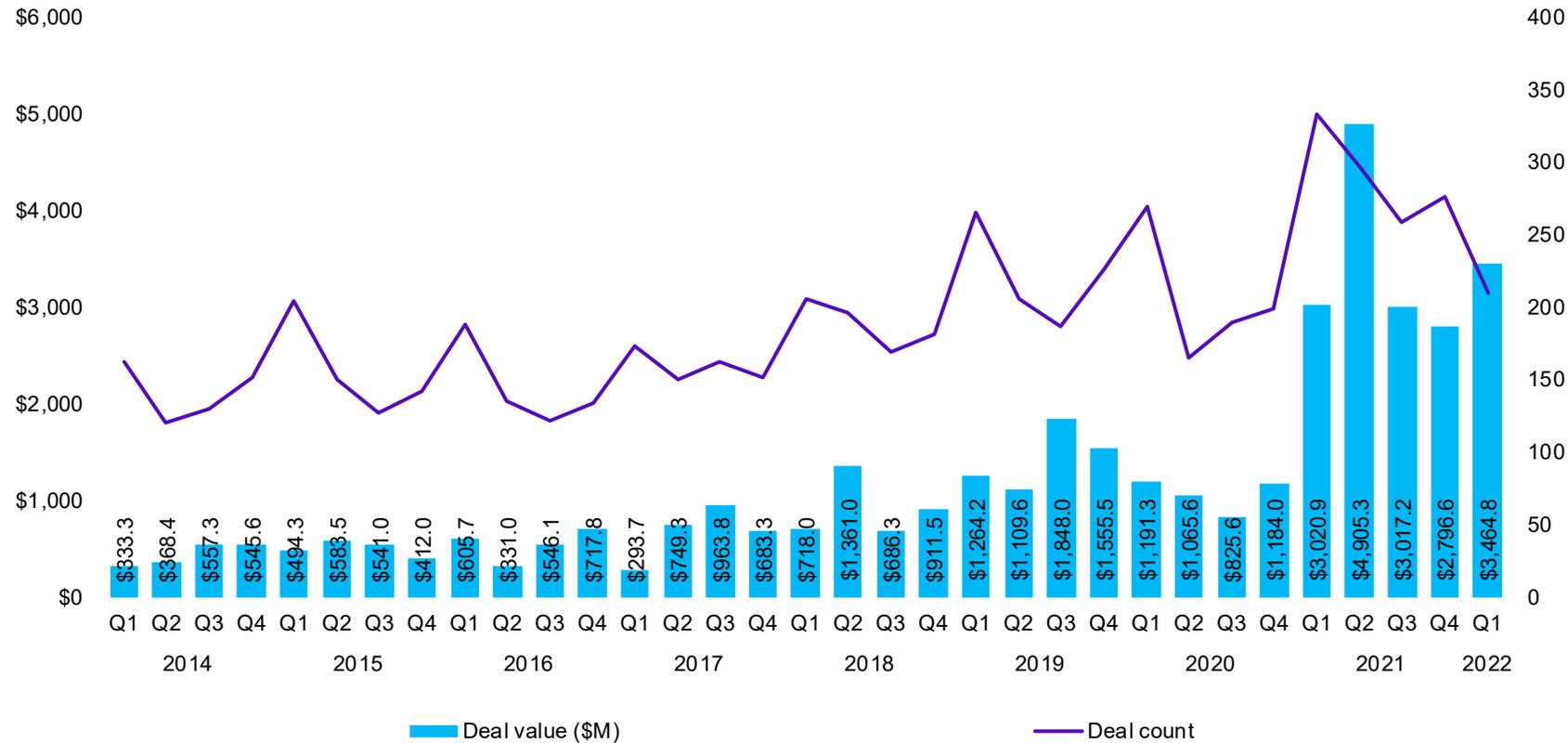
南北アメリカへの投資家の懸念は、ロシア・ウクライナ紛争が解決するまでは続くものと予想されます。一方、市場には大量のドライパウダーが存在することから、次の四半期も調達した資金を配分する必要から、ベンチャーキャピタルによる投資は比較的堅調に推移すると考えられます。フィンテック、ヘルステック、代替エネルギー分野が、この地域において注目される投資分野になると考えられます。

4 <https://bamboocp.com/paladiums-asset-manager-bamboo-strikes-up-strategic-partnership-with-kptl-to-generate-additional-impact-in-latin-america>

南北アメリカー2022年 第1四半期

Venture financing in Canada

2014–Q1'22



Source: Venture Pulse, Q1'22, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of March 31, 2022. Data provided by PitchBook, April 20, 2022



カナダに限らず、世界中でサイバーセキュリティが大きな問題になっています。大企業から中小規模の企業に至るまで、すべての企業がサイバーセキュリティ対策について真剣に取り組まなければなりません。サイバーセキュリティが企業や人々にどれだけ影響を及ぼしているかを考えれば、ベンチャーキャピタルによる投資がこれほど多くこの分野に集まっていることも驚きに値しません。この分野は関心が非常に高い投資分野であり、この状況は今後も続くと考えられます。



Sunil Mistry

Partner, KPMG Private Enterprise,
Technology, Media and
Telecommunications,
KPMG in Canada

#Q1VC

ヨーロッパ-2022年 第1四半期

2022年第1四半期、ヨーロッパにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、英国、エストニア、フィンランド、フランス、トルコ、イタリア、オーストリアなどで大規模な取引を記録しています。このような地理的な多様性は、ヨーロッパのイノベーションエコシステムの幅広さと、地域を越えたスタートアップの急速な成熟の両方を示しています。

ESGと気候テックが成長分野に

2022年第1四半期、COP26サミット（2021年第4四半期に開催）の影響もあり、ヨーロッパにおけるベンチャーキャピタルによるESGおよび気候テックへの投資が急増しました。また、ロシア・ウクライナ紛争によって一部のヨーロッパ諸国がロシアのガスに依存していることが明らかになり、この危機を受けてドイツは2022年第1四半期に、完成しているノルドストリーム2ガスパイプラインプロジェクトの認証手続きを停止しました⁵。地政学的な不確実性と気候変動に対する懸念が広がった結果、気候テックに加えて代替エネルギー源や代替エネルギーシステムへの投資にも拍車がかかる結果になっています。さらに、エネルギーやカーボンマネジメントに特化したフィンテックなどのスタートアップへの関心も高まる可能性があります。

英国のベンチャーキャピタル投資が急増し、四半期記録を更新

2022年第1四半期、英国のベンチャーキャピタルによる投資は、Checkout.comの10億ドルの超大型取引に牽引されたことで急増し、四半期記録を更新しました。業界を問わず企業がデジタル化や技術革新を受け入れ、プライベート・エクイティ・ファンドがより高いリターンを求め、より高いリターンを得るために初期ステージの企業に焦点を当てた資金調達が増加するなど、さまざまな要因が重なって、英国のベンチャーキャピタル市場は活況を呈しました。現在、金利は上昇傾向にありますが、すでに調達されている資金が大量に存在するため、2022年第2四半期も投資は比較的堅調に推移すると見られています。

地政学的環境とマクロ経済学的環境が不透明であることから、英国の一部のベンチャーキャピタルは、好機がすぐに終了してしまうかもしれないという懸念から、速やかに取引を完了させようとしています。2022年第1四半期は、B2B関連サービスやヘルステックに加えフィンテックも注目される投資分野になりました。さらにサイバーセキュリティや防衛関連ソリューションへの投資も大きく成長しています。

ドイツのベンチャーキャピタルによる投資は落ち込んだものの、引き続き堅調に推移

ドイツのベンチャーキャピタルによる投資は、2021年第4四半期に過去最高を記録し、その後減少に転じたものの、投資総額は堅調な状態を維持していると言えます。Patient21（1億4,200万ドル）やAda Health（1億2,000万ドル）などのヘルステック企業が多額の資金調達に成功しています。ドイツにおけるベンチャーキャピタルによるファウンドレイジングは、2022年第1四半期も非常に堅調で2021年のペースを上回っています。さまざまな企業の中で特に自動車業界は、スタートアップを助成することでビジネスの拡大を模索しており、ベンチャーキャピタルマーケットに関心を示し続けています。

⁵ <https://www.reuters.com/business/energy/germanys-scholz-halts-nord-stream-2-certification-2022-02-22/>

ヨーロッパ-2022年 第1四半期

北欧では2021年からの追い風がベンチャーキャピタル投資を後押し

2022年第1四半期、北欧地域におけるベンチャーキャピタルによる投資は、2021年の後半に開始されたディールも一因となり、堅調に推移しました。フィンランドの労働生産性に関係する企業のRelax（5億6,600万ドル）をはじめ、衛星画像処理企業のICEYE（1億3,500万ドル）、携帯電話再生企業のSwappie（1億2,200万ドル）、スウェーデンのVolta Trucks（2億6,000万ドル）、ノルウェーのエンタープライズアーキテクチャツールを提供するArdoq（1億2,500万ドル）など、1億ドル以上のラウンドが多数行われ、ベンチャーキャピタルによる投資を牽引しました。取引数の増加はこの地域におけるエコシステムが成長していることと、シードステージの地域的な強みがあることを示しており、事業を拡大しているレイターステージ企業の増加につながっています。

北欧のスタートアップエコシステムに強みが存在する一方で、2022年第2四半期には金融市場の不安定化やインフレ率と金利の上昇、ウクライナ危機などへの懸念から、レイターステージに影を落とす可能性があります。資本調達容易さは記録的な状態を保っていますが、国外の投資家が主導するレイターステージのベンチャーキャピタル取引は2021年よりも不確実性が增大していることから、完了するまでにこれまで以上に時間を要する可能性があり、デューデリジェンスやバリュエーションへの比重が高まると考えられます。

イスラエルのベンチャーキャピタルマーケットは依然として注目株

2022年第1四半期、イスラエル市場は国外のベンチャーキャピタルと企業からの関心が高く、堅調に推移しました。イスラエルではサイバーセキュリティ分野が依然として注目される投資分野で、同四半期にCheqが1億5,000万ドルの資金を集めています。アグリテックとヘルステックも投資家から熱い注目を集めており、ミルクバイオエンジニアリング企業のRemilkが

1億2,000万ドル、医療診断企業のMeMedが9,300万ドル、健康関連データ分析企業のMDCCloneが6,300万ドルの資金調達を成功させました。同国では有能な人材の獲得競争が激しいことから、成熟したスタートアップが急激な成長を成し遂げるうえで必要な人材を確保するために、イスラエル国内をはじめ他のヨーロッパ諸国の企業買収が増えると考えられます。

アイルランドでは、取引数は減少するもベンチャーキャピタル投資は非常に好調

2022年第1四半期は、アイルランドのベンチャーキャピタルによる投資にとって多忙な四半期でした。取引総数は減少しましたが、ベンチャーキャピタルによる投資額は依然として堅調で、フィンテックのWayflyerが1億5,000万ドル、食品注文プラットフォーム企業のFlipdishが9,600万ドルの資金調達に成功しています。この投資ラウンドの結果、これらの企業は待望のユニコーンのステータスを獲得しています。この四半期には、JP Morgan Chaseによりアイルランドのシェアプランマネジメントテクノロジー企業のGlobal Sharesを7億3,000万ドルで買収する計画が発表され、2022年後半に完了する予定です⁶。

2022年第2四半期に注目すべきトレンド

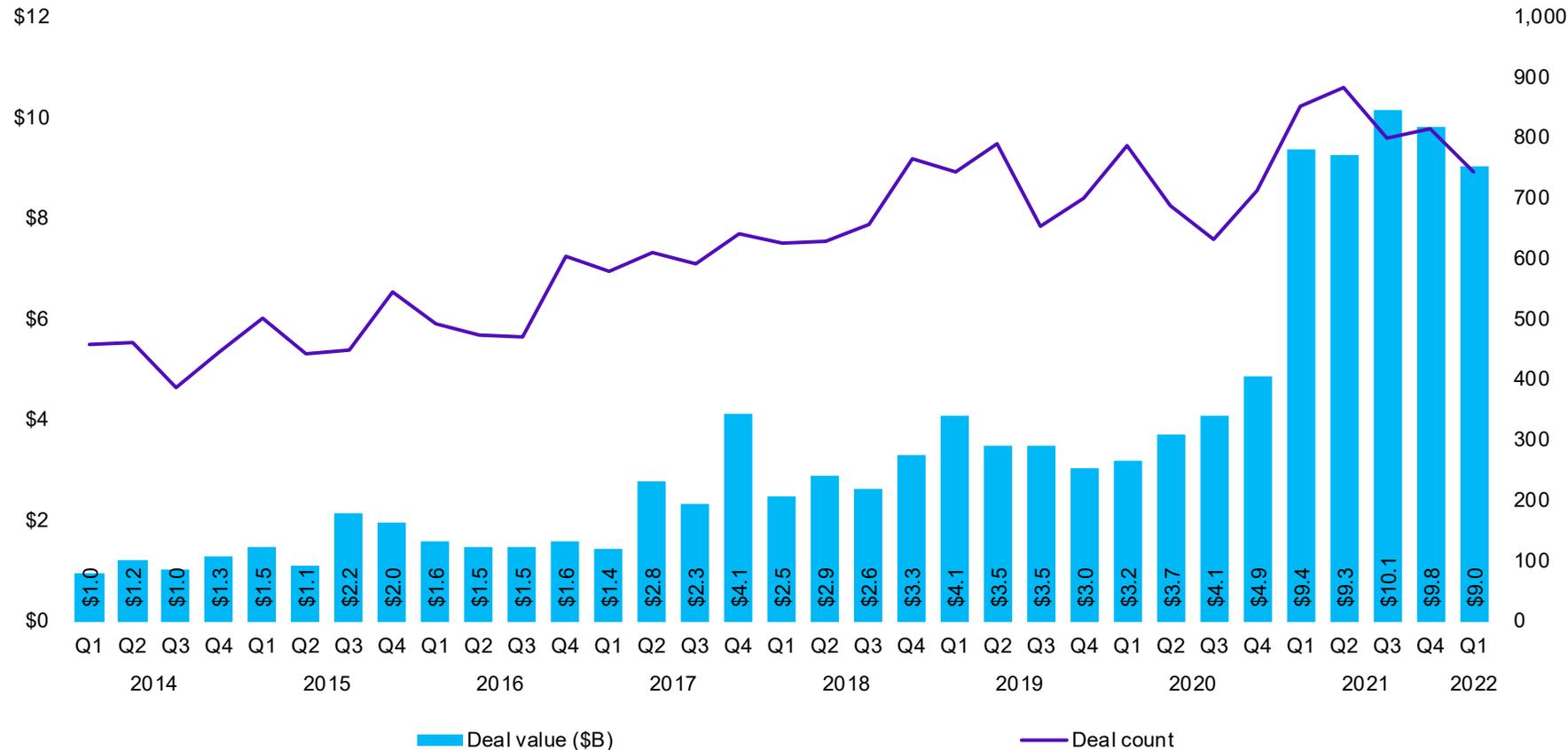
2022年第2四半期のヨーロッパ市場は、ロシア・ウクライナ紛争、インフレ率と金利の上昇の結果として幾分鈍化すると考えられます。市場にはかなりのドライパウダーが存在しているものの、ベンチャーキャピタルは短期的には不確実性から投資を控える可能性があります。フィンテック、ヘルステック、代替エネルギー分野は、2022年第2四半期もこの地域で依然として注目される投資分野になるでしょう。

⁶ <https://www.irishtimes.com/business/technology/jp-morgan-confirms-665m-takeover-of-cork-s-global-shares-1.4827459>

ヨーロッパ-2022年 第1四半期

Venture financing in the United Kingdom

2014-Q1'22



Source: Venture Pulse, Q1'22, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of March 31, 2022. Data provided by PitchBook, April 20, 2022



英国では、フィンテックがベンチャーキャピタルによる多額の投資を呼び寄せ続けています。また決済分野が成長しており、なかでもBNPL（後払い決済）が投資家から注目され、その中には事業の多角化によりBNPLオプションに参入した企業も含まれています。FCA（英国金融行為規制機構）は近い将来、この分野の規制を強化する意向を発表しており、その結果この分野の統合が進む可能性があります。



Warren Middleton
Lead Partner for Emerging Giants
CoE in the UK,
KPMG in the UK

アジアー2022年 第1四半期

2022年第1四半期におけるアジアのベンチャーキャピタルによる投資は、地政学的な不確実性の高まり、オミクロン株の感染拡大、パブリックマーケットの不安定化の増大、中国の規制強化の継続などの要因により減少しました。一方、ベンチャーキャピタルによる投資の水準は、地域全体で1億ドル以上の超大型取引が複数実施されたこともあり、過去に比べ比較的堅調な状態を維持しています。

さまざまな地域と分野が大型の投資ラウンドを引き付ける

2022年第1四半期、アジアのベンチャーキャピタルマーケットでは、10億ドルを超える大規模取引はありませんでしたが、多くの地域で5億ドル超の投資ラウンドを呼び込んでおり、地域全体としての強さが増していることを示しています。インドは2022年第1四半期に行われたアジア地域最大規模のラウンドのうち3件を引き付け、BYJUの8億ドル、Swiggyの7億ドル、DailyHuntの4億7,800万ドルの資金調達が行われました。中国では、JD Propertyの8億ドル、Changan New Energyの7億8,400万ドル、InnoScienceの4億7,100万ドルの資金調達が成功しています。その他の国では、シンガポールのPrinceton Digital Groupの5億ドル、韓国のMegazone Cloudの4億4,200万ドルなどが挙げられます。アジア地域でのベンチャーキャピタルの関心は、エドテック、フードデリバリー、ヘルステック、B2Bサービスなど多岐にわたっています。

2022年第1四半期、インドはやや冷え込む

2022年第1四半期、インドのベンチャーキャピタルによる投資は2021年後半の記録的な取引額と比べると幾分鈍化したものの、eコマース、フィンテック、エドテック、ソーシャルプラットフォーム、ゲームなど広範囲の分野への関心は続いています。特にゲーム分野は過去2年間で大きな進化を見せており、インド国内向けゲームコンテンツの開発に特化する企業が増え、この分野に対する関心や投資が増加する結果につながっています。

インドの主要分野の急速な成熟は、市場への参入者の大幅な増加と相まって市場シェアの競争が加熱するとともに、M&A活動を活発化させる結果になっています。ソーシャルメディア分野では、2022年第1四半期、業界首位のShareChatが競合のMXから約7億ドルでショートビデオアプリを買収しました⁷。今後は、エドテックやフードデリバリーなどの分野で統合や合併が進むと考えられます。

中国でもっとも注目される投資分野は依然として政府の優先分野

2022年第1四半期、中国では、他のセクターの投資活動が減少しているにもかかわらず、政府が経済成長にとって重要であると認めた分野に注力する企業がベンチャーキャピタルによる投資を呼び込みました。特に、新エネルギー自動車、半導体、その他のハードウェア関連テクノロジーに関わる企業に関心を示しました。また、従来型製造プロセスの効率改善に取り組む企業や、SaaS B2Bサービスを提供する企業に対しても関心が集まっています。

⁷ <https://www.reuters.com/technology/indias-sharechat-acquire-local-rival-mxs-short-video-app-700-mln-deal-sources-2022-02-10/>

アジアー2022年 第1四半期

日本のベンチャーキャピタル市場は、過去最高額を記録した後、小休止

日本では、ベンチャーキャピタルによる投資は、2021年に年間最高額を記録しましたが、2022年第1四半期は小休止をとりました。しかし、日本のベンチャーキャピタルマーケットの成熟度はさらに高まり、海外の投資家が増加するとともに、B2B SaaSを対象にしたニッチベンチャーキャピタルも増加しています。2022年第1四半期、株式市況の悪化とバリュエーションの低下を受けて一部の投資家はその投資分野をさらに拡大しました。結果的に、ディープテック、Web 3.0、メタバースソリューション、代替エネルギー、ヘルステック、バイオテックなどの分野への投資が今後増大すると考えられます。

日本政府は「成長戦略実行計画」を発表したほか、2022年を「スタートアップ創出元年」と位置づけました。これにより、今後数四半期の間、この分野への関心が高まる可能性があります。さらに金融庁は、未上場企業の成長や再活性化を支援すると同時に未上場株の流通システムを開発し、指定投資家の条件緩和を行うなどの制度改革を計画しています。

2022年第2四半期に注目すべきトレンド

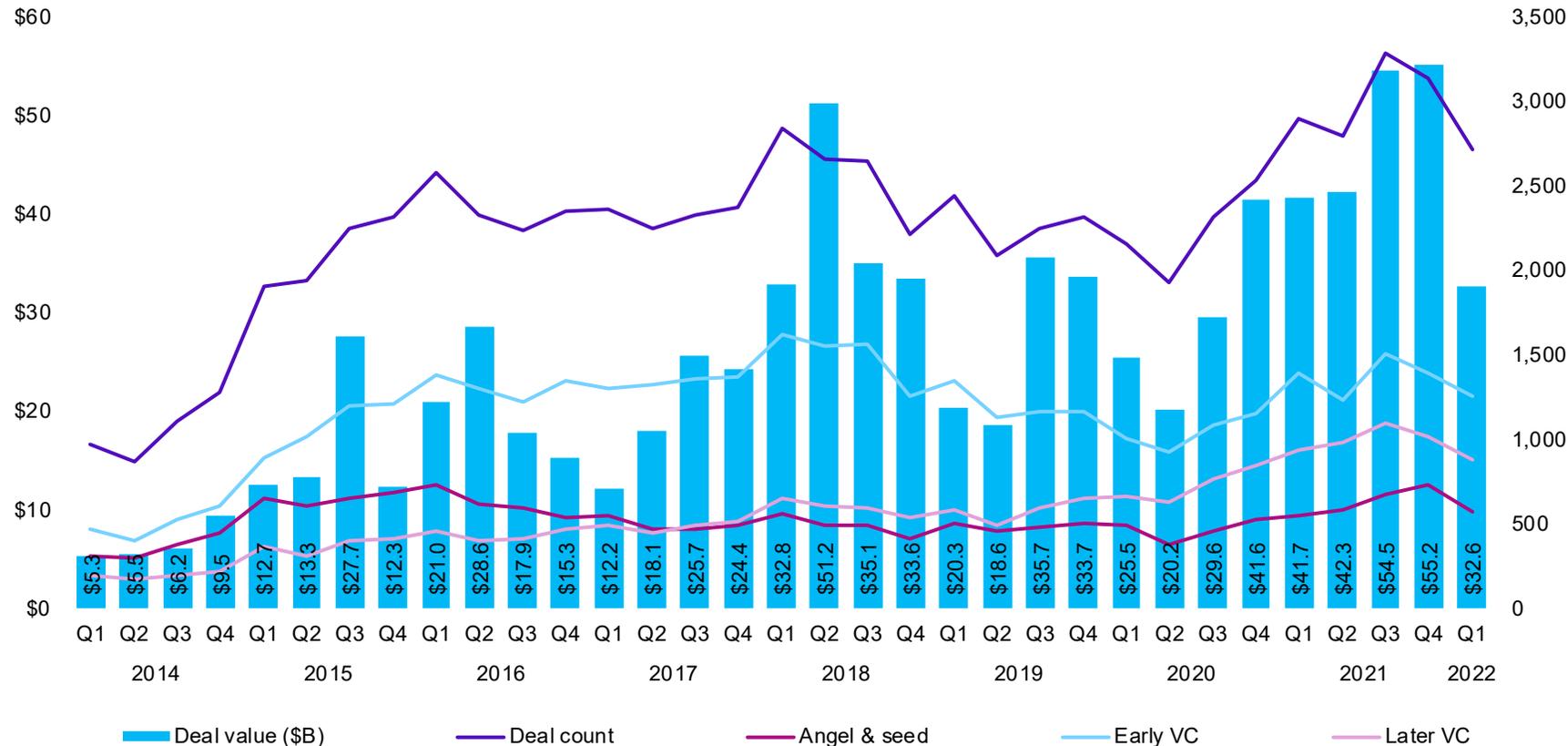
2022年第2四半期のアジア地域におけるベンチャーキャピタル投資は、米国に上場している中国企業の業績に加え、アジアの資本市場のパフォーマンスにも大きな懸念があります。

中国の規制強化に加えて、ボラティリティが長期化した場合、投資家（特に外国人投資家）の撤退を誘発する可能性があります。インドでは、物価の上昇、金利の上昇、地政学的な不確実性の増大が続く際、投資家が慎重にはなるものの市場にある資金が豊富なため、その影響が緩和されると考えられます。フィンテックとeコマースは投資家にとって今後も魅力的な分野であり、さらにインド全体での農業分野の規模を考えるとアグリテックに対する関心も高まると考えられます。

アジアー2022年第1四半期

Venture financing in Asia

2014-Q1'22



Source: Venture Pulse, Q1'22, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of March 31, 2022. Data provided by PitchBook, April 20, 2022



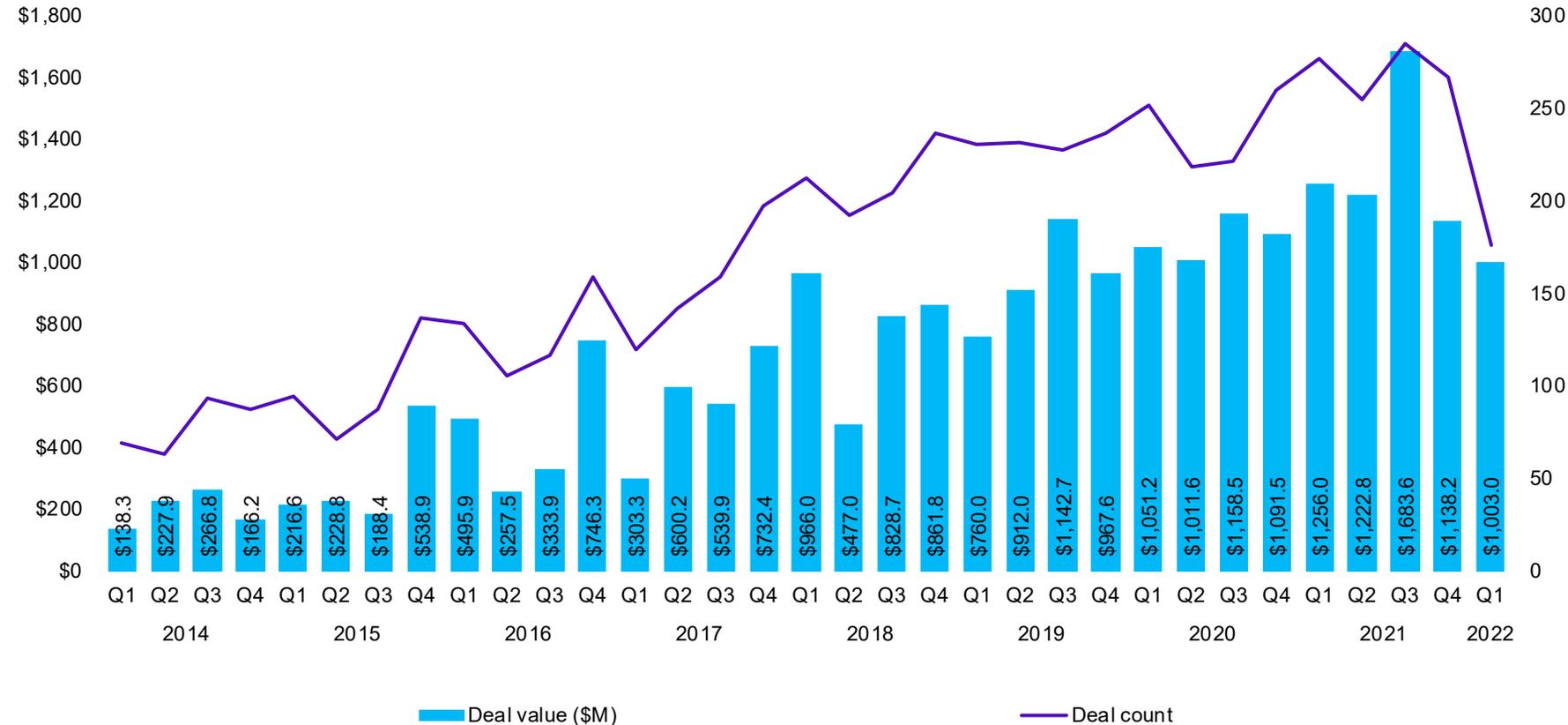
Egidio Zarrella
Partner, Clients and
Innovation
KPMG China

2022年第1四半期、ベンチャーキャピタルは特に、新エネルギー自動車、半導体、その他のハードウェア関連テクノロジー企業に関心を示しました。また、従来型製造プロセスの効率改善に取り組む企業やSaaS B2Bサービスを提供する企業に対する関心も高まっています。

アジア—2022年 第1四半期

Venture financing in Japan

2014–Q1'22



Source: Venture Pulse, Q1'22, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of March 31, 2022. Data provided by PitchBook, April 20, 2022



日本のベンチャーキャピタルマーケットは成熟を続けており、ミドルステージ取引に参入する海外投資家も増えています。2022年第1四半期は、コーポレートベンチャーキャピタルによる直接投資は減少しましたが、コーポレートベンチャーキャピタル資金は増加傾向にあり、長期的に見るとこれは有利な影響を及ぼすと考えられます。ただし短期的には、ロシア・ウクライナ紛争などの要因による混乱のために事業会社が活動を停止する可能性があるため、コーポレートベンチャーキャピタルの動向を慎重に見極めることが重要です。



阿部 博

常務執行理事

スタートアップ統轄パートナー

有限責任 あずさ監査法人

Q1VC



KPMGジャパン セクター統轄室

Sector-Japan@jp.kpmg.com

プライベートエンタープライズセクター

home.kpmg/jp/private_enterprise

英語オリジナル

[Venture Pulse Q1 2022 : Global analysis of venture funding](#)

home.kpmg/jp/socialmedia



本冊子は、KPMGインターナショナルが2022年4月に発行した「Venture Pulse Q1 2022: Global analysis of venture funding」を、KPMGインターナショナルの許可を得て抄訳したものです。翻訳と英語原文間に齟齬がある場合は、当該英語原文が優先するものとします。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供できるよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2022 Copyright owned by one or more of the KPMG International entities. KPMG International2entities provide no services to clients. All rights reserved.

KPMGは、グローバル組織、またはKPMG International Limited (「KPMGインターナショナル」)の1つ以上のメンバーファームを指し、それぞれが別個の法人です。KPMG International Limitedは英国の保証有限責任会社 (private English company limited by guarantee) です。KPMG International Limitedおよびその関連事業体は、クライアントに対していかなるサービスも提供していません。KPMGの組織体制の詳細については、<https://home.kpmg/xx/en/home/misc/governance.html>をご覧ください。

© 2022 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved. 22-1063

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.